

Green Community NewsLetter

省資源と環境負荷の低減を実現する
新エネルギー技術の動向を発信中！

低炭素型
まちづくり

森林保
全

太陽光
発電

小水力
発電

バイオマス
発電

風力
発電

グリーン
プロパティ

2015.05.10号

ストックホルムのまちづくり ～アテネオリンピック誘致後の変貌～

スウェーデンの首都ストックホルム市は、人口約80万人を有する北欧最大の都市で、市街地の1/3が緑地、1/7が湖面で覆われており、世界で最も美しい都市の1つである。市の環境政策の柱は、上下水道の管理、資源循環システムの構築、公共交通機関の整備、自然環境の保護である。これらの政策が評価され、1997年には、「ヨーロッパ持続可能な都市賞」を受賞した。



市内の様子



市庁舎からの夜景

◇ハンマルビー・ショースタッド地区

本プロジェクトは、港湾工業地帯の臨海地区が再開発されたものである。1999年から着工し2015年に完成予定である。元々、2004年のオリンピックの選手村として予定されていたエリアであるが、誘致失敗後に環境先進都市へ生まれ変わった。最終的には、3万人の居住者と労働者が利用する地区になる見通しである。



ハンマルビー・ショースタッド地区全景

地区の中心をトラムが走っており、バスも何本か運行している。



トラムの線路



生態系を保護するための案内



地区内の様子



地区内水路の整備

地区内における取り組みは、ハンマルビーモデルとして有名である。可燃ゴミのリサイクル化や生ゴミのコンポスト化、最新技術により下水から栄養分を取り出して農場で利用する試み、下水処理場で生産された熱を暖房に再利用するほか、汚泥はバイオガスに変換するなどのエコシステムが進められている。また、バイオガスで走る公共交通バスや、地区全体には散歩道や自転車道が整備されている。

ゴミ収集車がゴミを回収しているところに出会った。これはレストランから排出されるゴミを回収しているところである。収集車には、大きく「これであなたが出したゴミが熱と電力に変わります」と書かれていた。



ゴミ収集車に書かれている文字

これであなたが出したゴミが熱と電力に変わります。

住宅街の中庭には家庭ゴミの回収箱がある。これは、バキューム式ゴミ回収システムだ。ここにゴミを入れると一定時間おきにバキューム式でゴミを吸い取り、中央のゴミ収集所

へ自動で送り込まれるシステムである。それが廃棄物として焼却され、その熱が地域熱暖房として住宅に戻ってくる仕組みである。ストックホルム全体で地域熱暖房のシステムは構築されているが、バキューム式でこういった仕組みをつくっているのはこの地区が最初らしい。



バキューム式ゴミ箱によるゴミ収集システム

このシステムはとにかくゴミの分別がカギとなる。分別がしっかりされていないと自動で収集しても、再生できないからだ。回収箱には鍵がかかっており、住民がその都度、鍵を開けてゴミを入れるようになっている。

この地区は、緑や土など自然が多い。高速道路を隔てた奥の緑地には希少な昆虫や動物等があり、これらの生き物が高速道路を渡って二つのエリアを行き来できるよう、繁殖を守る目的などから緑と土のある橋がつくられている。



緑の橋

緑が分断された2地区を結ぶ橋

昆虫・小動物が行き来可能

一方で課題もある。当初の想定より子連れ家族が多く、自動車利用者数が減らないことがある。また、バリアフリー計画で段差をなくした歩道、手すりのついた階段などを設置するといった計画に基づき整備はされているものの、地区全体の調和としてのバリアフリー化が遅れているらしい。

他にも、幼稚園の数が不足していること、トラムが走るメインストリートが寂しい、酒屋がないというのも課題の1つだそう。

◇自転車道の整備

市内には、十数ヶ所で自転車をレンタルできる仕組みがある(3月から8月まで)。1シーズン4,000円程度で乗り放題らしい。同市のほかにオスロでも同じ取組みはあるものの、自転車道の整備は、コペンハーゲンと比べるとまだまだとのこと。興味深かったのは、赤信号で停車する自転車の場所である。自動車による右折車の巻き込みが危ないことから、交差点で止まる先頭の自動車の前に自転車が停止する場所が設けられていることだ。これにより、信号が青になると、まず自転車が自動車より先に右折、直進することができる。コペンハーゲンの平らな場所と比べて、ストックホルムは高低差があるものの、自転車の普及は進んでいるという。



自転車の停車場所(車の前)



【コラム:レポーターが現地で聞いたこと】

【コラム:レポーターが現地で聞いたこと】

①環境に対する意識

・若者の中ではエコに取り組むことはカッコいいことである。

②環境先進国の昔

・何もなかったところから始め、今の環境先進国家を築き上げている。

③環境先進技術等

・新たなエコタウンの計画地域では「監視社会」になると批判する人たちもいるという。水の使用量、ゴミの排出量、電気の使用量などがすべて把握され、地区全体のCO2削減目的に対する貢献度が全て数値で家庭ごとに算出されるのだ、地元の新聞でも、こんな監視される環境の取り組みに参加してまでこの地区に住もうという人がいるのかといった疑問の声も上がっているらしい。

本資料は、弊社レポーターが現地をストックホルム市在住のレーナ・リンダル氏に案内していただいた内容をもとに作成したものである(視察:2010年11月)。